

4. 定点把握対象感染症患者報告状況(月報)

(1) 過去5年間の報告状況

疾患名	平成 21 年	平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年
性器クラミジア感染症	145	172	147	133	239
性器ヘルペスウイルス感染症	77	93	83	106	229
尖形コンジローマ	48	60	44	58	50
淋菌感染症	37	31	37	19	29
性感染症報告数 小計	307	356	311	316	547

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	378	439	338	350	326
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	11	23	13	11	27
薬剤耐性緑膿菌感染症	7	11	2	5	5
薬剤耐性アシネトバクター感染症 [*]			—	—	—
薬剤耐性菌感染症報告数 小計	396	473	353	366	358

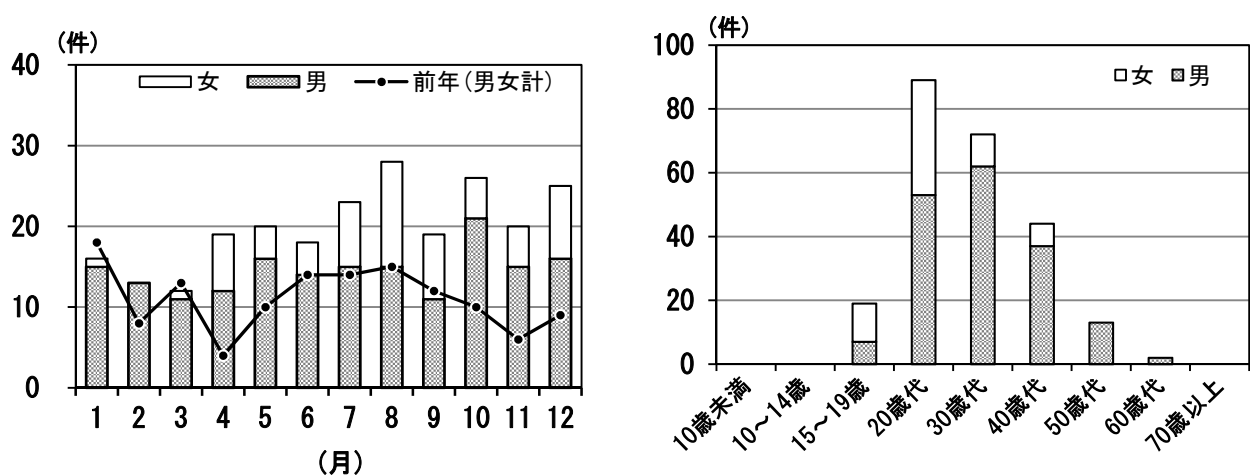
^{*}平成23年2月1日より定点把握疾患として追加された。

(2) 性感染症患者報告状況

性感染症患者の総報告数は毎年 300～350 件で推移していたが、本年は 547 件と大きく増加した。しかし、本年 4 月に性感染症定点病院が一部変更されたことより、この報告数を単純に比較することはできないと考えられる。男女別に見ても、男性 298 件、女性 249 件と女性の報告数が増加したものの、依然男性からの報告が多く、疾患別でも前年同様、性器クラミジア感染症（43.6%）、性器ヘルペスウイルス感染症（41.9%）、尖形コンジローマ（9.1%）、淋菌感染症（5.3%）の順に多かった。

① 性器クラミジア感染症

性器クラミジア感染症の月別患者報告数と年齢別患者報告数



年間報告数は 239 件と前年（133 件）より増加し、季節的に大きな変動はみられず、年間を通じて報告された。男女別では男性 174 件(前年 116 件)、女性 65 件(前年 17 件)と男性が全体の約 7 割を占め、男女とも報告数は前年を上回った。年齢別報告数では、10 歳代 7.9%、20 歳代 37.2%、30 歳代 30.1%、40

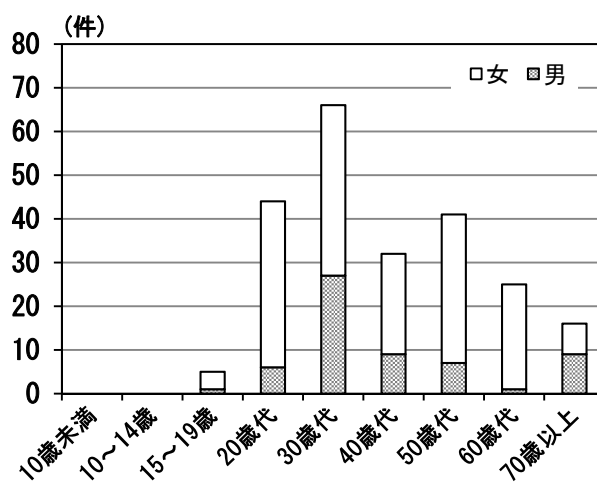
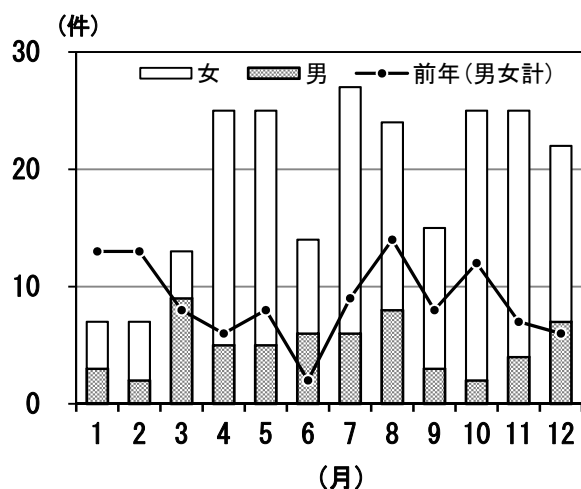
歳代 18.4%、50歳代以上 6.3%と、20～40歳代の報告が全体の 85.7%を占めた。

② 性器ヘルペスウイルス感染症

年間報告数は 229 件（男性 60 件、女性 169 件）であり、前年（106 件：男性 59 件、女性 47 件）に比べ女性の報告数が大きく増加した。また性感染症全体では、男性が女性より多く報告されているが、本疾患は女性が約 7 割を占めるなど、女性の割合が他の疾患に比べ高かった。

年齢別では、10歳代 2.2%、20歳代 19.2%、30歳代 28.8%、40歳代 14.0%、50歳代 17.9%、60歳以上 17.9%と、20歳未満からはほとんど報告されず、20歳以上においては、30歳代の報告がやや多かったものの各年齢層から報告されていた。また、60歳以上の報告数が 17.9%と、他の性感染症と比較して多いが、高齢者では潜伏していたウイルスによる再発の可能性も考えられる。

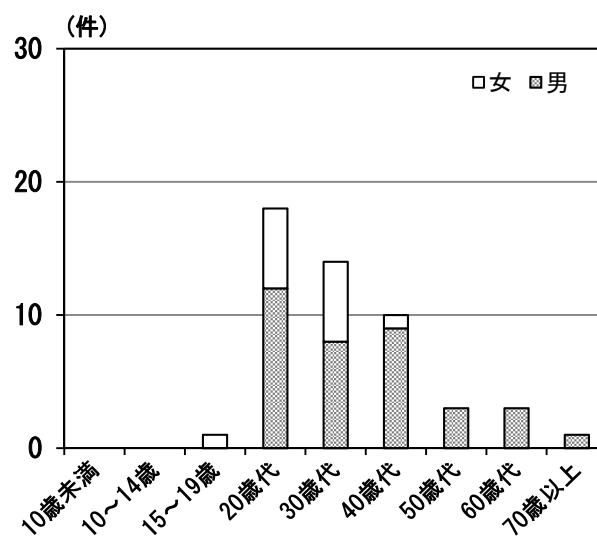
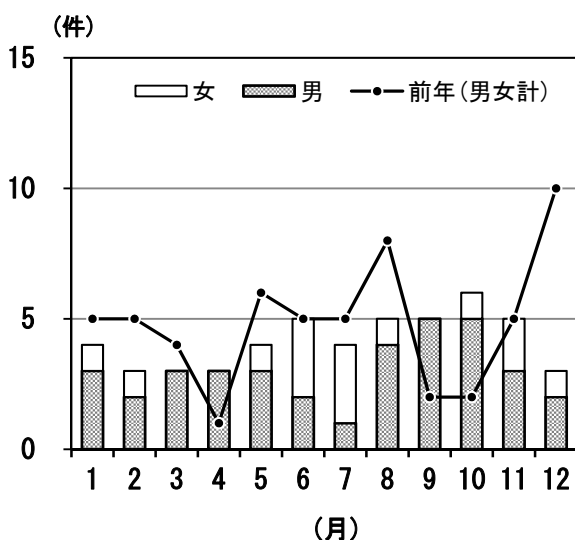
性器ヘルペスウイルス感染症の月別患者報告数と年齢別患者報告数



③ 尖形コンジローマ

過去 5 年間の年間報告数は 40 から 60 件で推移し、本年も 50 件（男性 36 件、女性 14 件）報告された。本疾患も性器クラミジア同様に男性が約 7 割を占め、20～40歳代の報告が全体の 84%を占めた。

尖形コンジローマの月別患者報告数と年齢別患者報告数

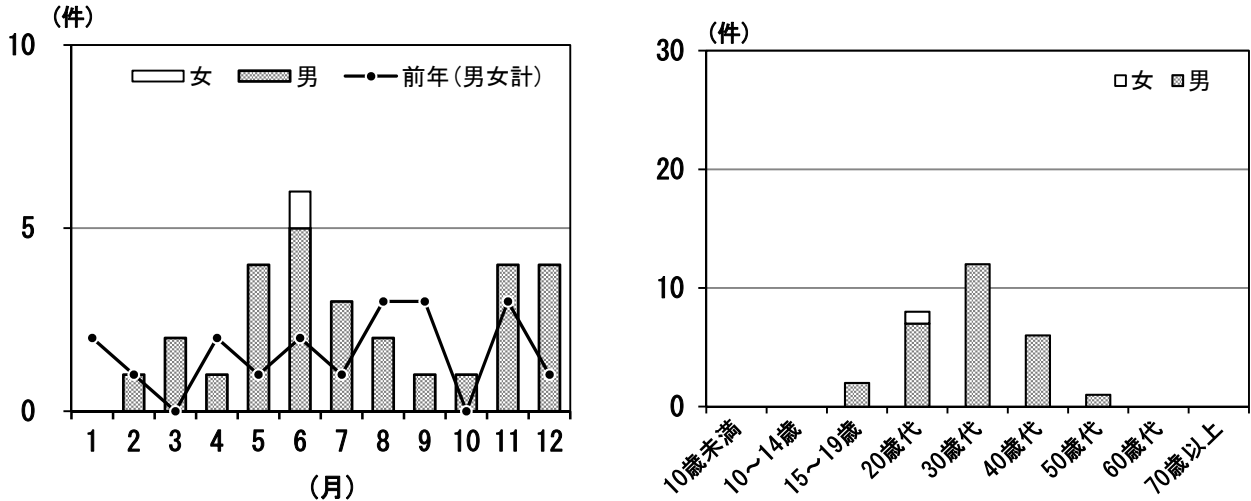


④ 淋菌感染症

年間報告数は29件、前年(19件)まで過去5年間減少傾向を示していたが、本年はやや増加した。男女別では、大半が男性の報告(28件)であり女性の報告は1件だけであった。

年齢層別では20～40歳の報告が最も多く、20～30歳代が全体の約90%を占めた。

淋菌感染症の月別患者報告数と年齢別患者報告数



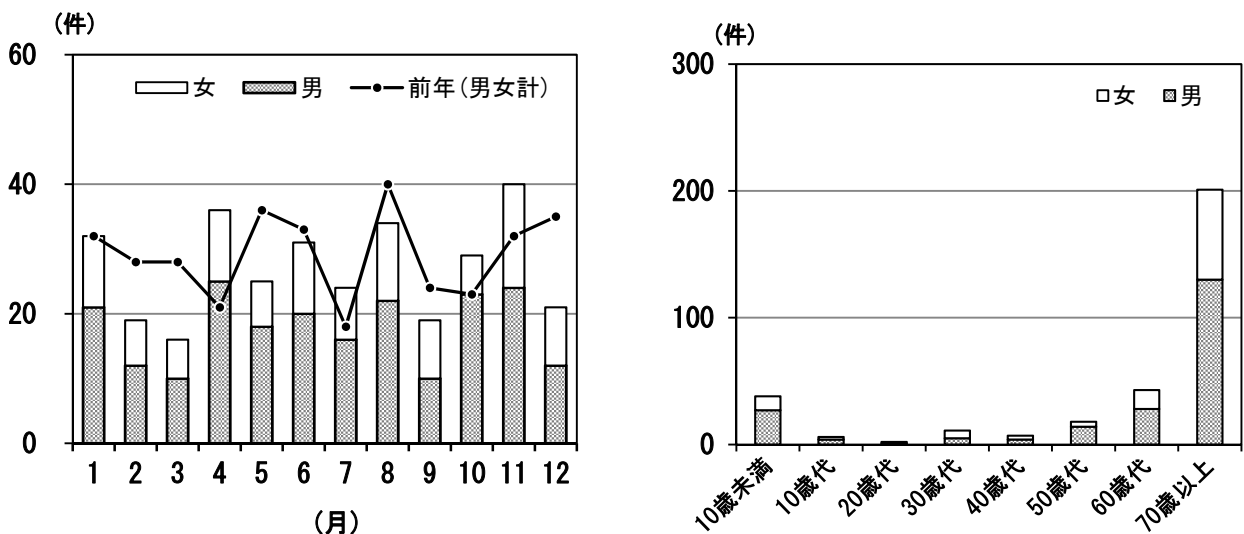
(3) 薬剤耐性菌感染症患者報告状況

薬剤耐性菌感染症の総報告数は358件であり、前年(366件)とほぼ同数であった。過去5年間でも平成22年(473件)以外は350～400件で推移し、大きな変化は見られていない。疾患別でも同様に、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症が約91%を占めた。

① メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

年間報告数は326件(男性213件、女性113件)あり、前年(350件)と大きな変化はなかった。年齢層別でも前年同様60歳以上からの報告が多く全体の約75%を占め、男女別でも男性の報告数が約65%を占めた。

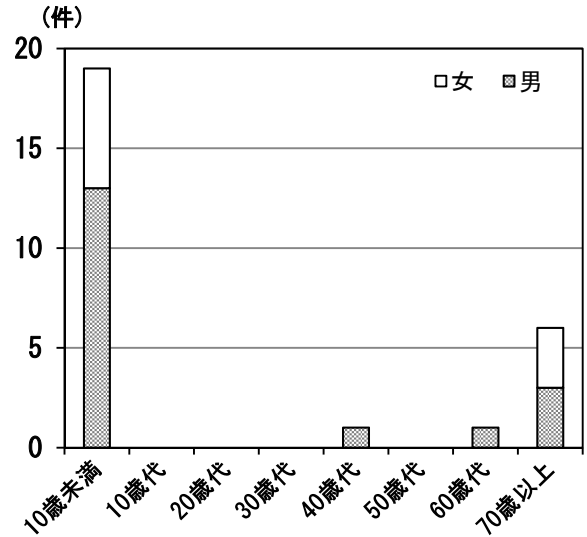
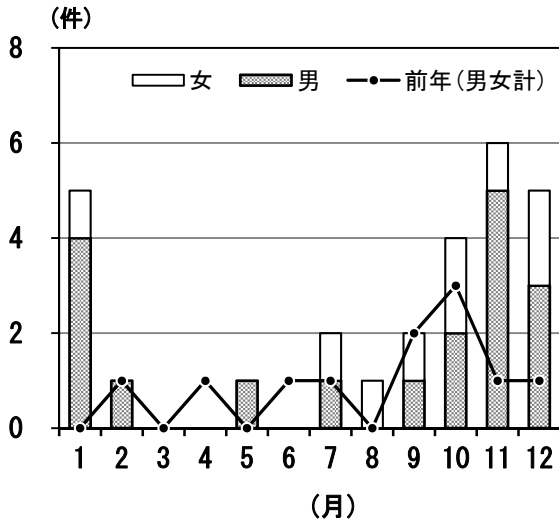
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症の月別患者報告数と年齢別患者報告数



② ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

年間報告数は27件（男性18件、女性9件）あり、前年（11件）から大きく増加したが、年齢別では前年同様に10歳未満（約74%）と70歳以上（約22%）の報告が多かった。

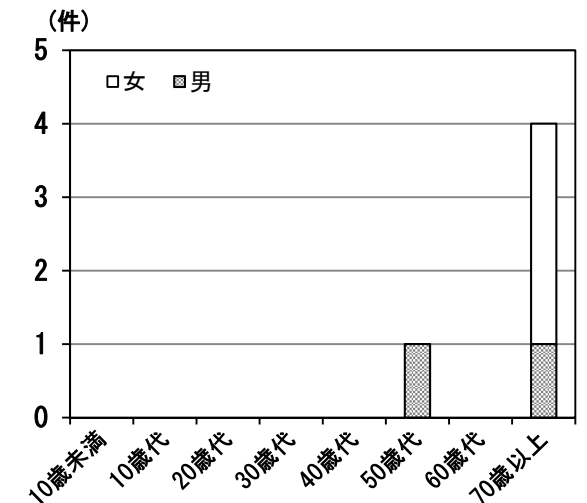
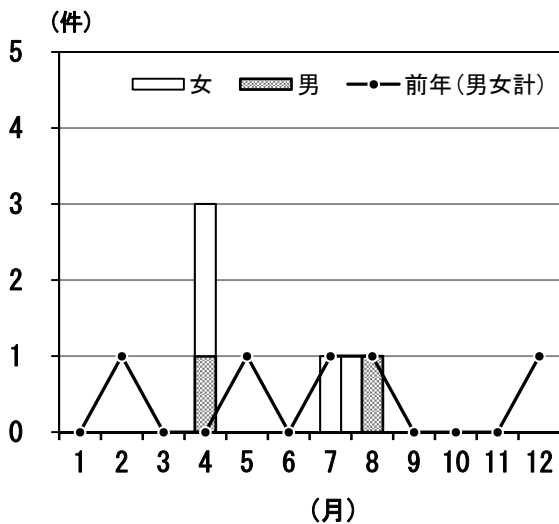
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症の月別患者報告数と年齢別患者報告数



③ 薬剤耐性緑膿菌感染症

年間報告数は5件（男性2件、女性3件）あり、前年（5件）と同数であった。年齢層は50歳代1件、70歳以上4件報告された。

薬剤耐性緑膿菌感染症の月別患者報告数と年齢別患者報告数



④ 薬剤耐性アシネトバクター感染症

平成23年2月から新たに追加された疾患であるが、現在まで報告されていない。全国では24件の報告が見られている。